

## 「自治力UP」推進協議会・専門部会 会議録（第1回）

1 日時 平成20年2月29日（金） 午後3時～午後5時

2 場所 板橋区役所本庁舎南館3階303会議室

### 3 出席者

（1）「自治力UP」推進協議会専門部会委員（敬称略）

中村年春、飯塚法道、小宮功、櫻井松勇、高橋秀幸、田中正樹、中田敏男、  
新妻康宏、堀口吉四孝、山口邦代

<欠席>田中將浩、蓮沼浩子

（2）区側出席者

区長（途中退席）、政策経営部長、政策企画課長、政策企画担当係長1人  
その他事務局職員3人

### 4 内容

（1）開会

（2）委員の紹介

（3）報告事項

① 「自治力UP」推進協議会について

② 専門部会の役割と進め方について

（4）議題

① 各団体等における協働事例の現状と課題について

② その他

（5）閉会

### 5 会議録

（1）開会

○政策企画課長 定刻になりましたので、只今から「自治力UP」推進協議会・専門部会第1回の会議を開催させていただきたいと思えます。

この専門部会は、昨年11月に設置いたしました「自治力UP」推進協議会のもとに、地域で活動する各団体等の協働に関する現状と課題などを調査、検討することを目的として設置するものでございます。

始めに、区長からご挨拶申し上げるところでございますけれども、公務が重なっておりまして、30分ほど遅れる予定でございますので、代わりまして政策経営部長よりご挨拶申し上げます。

○政策経営部長 政策経営部長の橋本です。本日は大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。後ほど区長が参りまして、きちんとご挨拶を申し上げますので、私は簡単にご挨拶を申し上げたいと思えます。

本日お集まりいただいております皆様には、各地域あるいは各分野におかれまして活動、活躍をいただいております。また区政に対して大変ご協力をいただいております。そのことに関しまして感謝申し上げます。

今後、自治力を向上させていくためには、これまで行政が担ってまいりました公共のあり方というものについて見直しを行うことが必要だと考えております。区民の皆様と行政とのあり方、それから区民と区民の皆様との協働のあり方というものについて、新たな関係づくりというものをつくっておかなければいけないということでございます。

従いまして、ぜひ皆様が目ごりの活動において抱えていらっしゃる協働に関する課題、あるいは行政へのご要望等につきまして、ぜひこの専門部会の中でご協議をいただいております「自治力UP」推進協議会で、具体的な方策のあり方について検討していきたいと思っております。

大変お忙しい中のご参加ということでございまして、大変申し訳ないと思っておりますけれども、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

**○政策企画課長** 最初に資料の確認をさせていただきたいと思っております。

－資料確認－

## (2) 委員の紹介

**○政策企画課長** 早速ですが、資料2-2にございます委員の名簿をご覧いただきたいと思っております。専門部会の委員の皆様方をご紹介します。

－委員紹介－

本日は、板橋区農業委員会会長職務代理の田中將浩委員と生ごみリサイクルネットワーク板橋代表の蓮沼浩子委員が、所用のため欠席されております。

それでは、早速ではございますが、この専門部会の司会進行役を務めていただきます会長を、大東文化大学の中村委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか。

－（「異議なし」の声あり）－

それでは、中村会長からご挨拶をお願いしたいと思います。

**○中村会長** 大東文化大学の中村と申します。皆様のご指名により、しばらくの間、この専門部会の会長を務めさせていただきます。

「自治力UP」ということで、先般、事務局から資料をいただきまして、皆さんの団体の活動等を拝見させていただきました。これだけ大きなポテンシャルを持っている団体が一堂に会して、ネットワークができれば、もう板橋は鬼に金棒ではないかと思っております。忌憚のないご意見をどんどん出していただいております。我々の意見を親会である協議会の方に反映させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**○政策企画課長** それでは、ここからの進行につきましては中村会長にお願いいたしますので、よろしくお願いいたします。

### (3) 報告事項

○中村会長 まず、「自治力UP」推進協議会専門部会傍聴規程（案）についてですが、親会の「自治力UP」推進協議会が、区民参加推進規程に基づいて会議を原則公開とし、区民の傍聴を許可しております。そういう関係もありまして、専門部会もこの規程（案）にありますように、同様の考え方で運営を行っていきたいと思いますので、ぜひ皆様のご了解をお願いしたいと思います。

なお、会議録ですが、要点を記録しまして、後日板橋区のホームページ、区政資料室、図書館等で公開をすることになっております。その際、発言者として委員の皆さんのお名前も原則公開という形になっておりますので、その点もあわせてご了解をお願いいたします。

それでは、次第の3番目「報告事項」について、事務局からご説明をお願いいたします。

#### ○政策企画課長

－資料1-1、1-2、1-3、1-4、2-1を説明－

○中村会長 ありがとうございます。区長さんがお見えになりましたの、一言ご挨拶をいただきたいと思います。

○区長 板橋区長の坂本でございます。本日はお忙しい中、この「自治力UP」推進協議会・専門部会にご出席いただきまして、お礼を申し上げます。

ご承知のとおり、この「自治力UP」推進協議会というのは、私のマニフェストの「10のいたばし力」のうち、第1番目の「自治力UP」を目的としたものでございます。これからの区政あるいは区民の生活のあらゆる部分で、この自治力が区民の皆様生活に密着したものでなければならないということで、この「自治力UP」をうたったわけでありまして。既に皆様には、各地域または団体におきまして、様々な部分でお力添えをいただいておりますけれども、特にこれから少子高齢化や環境の問題を考えていくときに、時代の変化に対応できる、またそういう時代の先陣を切るような地域づくりを進める必要があると思います。すなわち、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という気概を持って、自分たちの課題を自分たちで発見しながら、それを行政と、あるいは各団体と一緒に解決する方法を導いていくと、このような仕組みの中で、刻々と変化する時代の流れに対応できるような地域づくりが必要であると思うわけでございます。それだけに、この「自治力UP」推進協議会・専門部会の存在は大変大きい意味があると思っております。大変難しいテーマではありますが、一つひとつ自分たちの身の回りのことを考えつつ、または全体を考えながら、将来を見据えて、この専門部会での検討がすばらしい内容で進み、まとめられることを心から念願するところでございます。日ごろのお礼等を含めましてごあいさつとさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。今後ともよろしく願い申し上げます。

－区長退席－

○中村会長 それでは、先ほどの事務局からの説明について、ご意見、ご質問等があれば、どうぞよろしく願いいたします。

昨今、パートナーシップですとか協働とか、横文字を使えばコラボレーションだとか、様々言われておりまして、そして先ほど、新しい公共というお話もありましたが、私は「公共」というのはもともと行政の独占物ではないと思っておりまして。語源的にも「公」とか「公共」というのは「社会に開かれている」という意味です。本来、「公共」とは、実は我々一人ひとり、住民のものなのです。それを日本では、「公共＝行政」と考えられてしまっています。そういう意味では、ことさら新しい公共というものを考える必要はなくて、元来、「公共」とは我々一人ひとりの住民が担っていくべきものであり、そこに帰るといえるように考えればよいのではないのでしょうか。もちろん、今までの長い歴史の中で、ずっと行政がそれを担ってきましたので、我々住民の方にも、行政がやってくれるのを待つという姿勢がしみついてしまっていると思います。それを少し変えていかなければいけない、それが多分こういう時代の背景の中で出てきているのだらうと思います。

今日、皆さんのお手元に、板橋区と大東文化大学との共同研究報告書「元気な学生まちづくり」の冊子をお配りさせていただきました。これからの社会の中で、なぜ協働やパートナーシップが必要とされているのかということをもとめてあります。板橋区と大東文化大学は8年ほど共同研究をやってきておりまして、毎年、その成果を小冊子にまとめて公表しております。これは、2006年度の研究で、私もその事業に関わっていたものですから、少し書かせていただいたものです。機会があれば一度お目通しいただければと思います。

事務局から、資料をいただいて、皆さんの団体の活動の状況や課題に目を通させていただきましたが、実はもう既に、皆さん、沢山の協働をやっているということを確認いたしました。意識していないだけだと思います。

○櫻井委員 この専門部会の趣旨には同感します。しかし、何をやるにしても人力がなければできません。やはり事業をやるには、人を集めなければならない。特に、若い人たちが町会の仕事に対しても、すべての公の問題に対しても余り協力的ではないということが問題です。そういった人たちの興味をいかにして引き出すかということが、我々にとって一番の重要課題になっています。これから、いわゆる団塊の世代が定年退職を迎えるわけですが、今58歳から60歳代の奥様方を引き込んで、その旦那さんも地域の活動に参加してもらおうと思っているのですが、なかなかうまくいきません。

○中村会長 ありがとうございます。次第の4番目「議題」の内容に入ったような感じもしますので、特に今の事務局からの報告事項について、ご質問、ご意見がなければ、次の「議題」に移ります。よろしいでしょうか。

#### (4) 議題

○中村会長 先ほどのご説明にもありましたように、この専門部会の目的は、各団体等の協働に関する活動の現状と課題を整理することですので、自己紹介を兼ねまして、各団体の協働に関する活動事例と、それを展開するにあたって、もし課題があれば課題も含めまして、まずお話しいただきたいと思います。資料2-2の名簿に記載されている順番でお願いします。

○飯塚委員 商店街連合会の飯塚です。よろしくお願いします。商店街連合会は、この10年で随分元気がなくなってきました。商店主の高齢化や後継者問題など様々な要因から、このままでは商店街が衰退していくということで、様々な取り組みを行っております。商店街というのは、営利を目的とすることは当然ですが、それ以外に社会的な貢献活動を行っております。しかし、それが営利目的の考え方になっているのではないかということで、他の団体と商店街との間に少し温度差があったような感じがしていましたが、昨今ではそういったことはなくなっております。今お配りしました「にぎわいのあるまちづくりシンポジウム」は、平成17年9月に行われたものですけれども、例えば、中学生が商店街の仕事を体験し、まちの中の商店街の位置付けを理解するといったことを行いました。これが、にぎわいのまちづくり宣言ということで、こういった宣言をして、東京都の商店街グランプリという大会で、一昨年、その前から東京で一番の賞をいただきました。板橋というのは商店街が活発であり、その他の様々な団体も活発に活動しているのですけれども、特に商店街が行うイベントがまちをとつものにぎやかにしていくと思えます。

商店街の課題は、商店主の高齢化と空き店舗の問題です。空き店舗対策も沢山行っているのですが、商店が住居と一緒に場合が多くて、人に貸すということが難しいという問題があります。また、商店街の中に従業員がいなくなっておりますので、イベントに参加できる人手が不足しているということも大きな課題です。

○小宮委員 青少年健全育成地区委員会は、板橋区内に18地区ありますが、学校、家庭、そして地域が連携して、地区ごとに特徴のある事業を行っております。特に、学校の協力がないと青健の事業は成り立たないことが多いと思えます。今、家庭、親子関係のコミュニケーションが大変薄れてきているという現状の中で、親子キャンプを行い、大谷口地区ではその事業の中で、異なる学校、異学年の児童・生徒と一緒に、上の子が下の子の面倒を見るということをやっております。

また、課題といたしましては、ご協力はいただいておりますが、保護者の方に、もう少し青健の事業にご理解をいただいて、地域での防災訓練、あるいは清掃活動などに、もう少し児童・生徒が参加してもらえるといいのではと感じております。

○中村会長 青健の団体の特性からして、学校やPTA、あるいは、町会・自治会との協力関係がかなりうまくいっているということでしょうか。

○小宮委員 私どものところでは、うまくいっていると思っています。

○中村会長 問題は、個々の家庭の協力がなかなか得られない。

○小宮委員 そうです。学校からも各家庭に呼びかけているのですが、保護者のご協力がもう少しいただければと思います。

○中村会長 この点は、後ほど小学校PTA連合会の高橋委員からお話を伺えるでしょう。

○櫻井委員 「自治力UP」ということについて、まだ町会連合会でそういう話し合いは全然やっておりません。今度の会合ではある程度こういうものが立ち上がったということをお話ししながらやっていきたいと思っています。防災に関しては、特に地震に対してものすごく危機感があります。町会単位に住民防災組織というのがありまして、私のところは月1回防災訓練をやっています。私のところは、女性だけの

ですが、今のところは25名のうち毎月参加している方が15名ぐらいです。区長さんも言われたように、「自分たちのまちは自分たちで守る」という信念を持って、にりんそう隊という防災組織をつくりました。そのとき、みんなの意識向上を図るため、前区長さんに、板橋区のにりんそうと紋章を使わせてくださいとお願いし、現在使っております。

課題は、やはり若い人たちが集まらないということです。

**○中村会長** 阪神大震災のときもそうでしたが、危機管理といいますか、とりわけ大きな災害があったときに、一番ベーシックな組織がやはり町会・自治会だと思います。もちろん行政が最終的には救済とか復興をやりますけれども、やはり瞬時に対応できるのは、その地域、いわゆるコミュニティーでして、そこがしっかりしていないと被害が非常に拡大してしまいます。よく町会・自治会に入って、何のメリットがあるのかと、最近の若い人たちはそのようなことを言いますけれども、それはメリット・デメリットの問題ではなくて、自分たちの身の安全とか命とか健康とか財産といったものを最終的に守るのは自分たちの住んでいるこの地域なのだという意識が欠けているのではないかと考えております。

**○櫻井委員** 学校で防災訓練をやっていると思いますが、防災意識を教育の場で高めていくことはとても大切なことだと思います。町会でやっている防災訓練と連携できる場があるとよいと思うのですが。

**○中村会長** それがまさに、これから我々が議論していく協働ということだろうと思うのです。町会の防災訓練に学校も参加する。学校の防災訓練に町会の方も参加する。お互いにそういう意識を共有し合う、情報を持ち合うという、それがまさに自治力ないし協働ということなのです。今までは、よく言われる縦割り行政の弊害といいますか、なかなか横につながるネットワークとか組織がありませんでした。これからの社会はまさにそこが大事になってくる。そのためには、みんなで集まって何がお互いにできるのだろうか、協力し合えるのだろうか、そういう仕組みづくりがこれから求められていますので、まさにそのネットワークづくりをやろうとしているのが、この「自治力UP」推進協議会なのだろうと思います。ぜひ、今出されたような視点で声を上げていただきたいと思います。

**○高橋委員** 小学校PTA連合会の高橋でございます。PTAもPTA活動に参加してくださる保護者が少なくなっている、役員のなり手がいないというのが現状です。その中での協働とか地域とのつながりということで、先ほど小宮委員にお話しいただきましたけれども、子どもたちの青健のキャンプや、地域の運動会に参加させていただいております。また、全校でやっているわけではありませんが、いきいき寺子屋事業というものが5年ぐらい前から始まりましたが、これはPTAだけではなくて、町会、青健、児童館の方々と協力して、土曜日の子どもの居場所づくりをやっています。この寺子屋事業をやっている学校に関しては、ある程度地域とのつながりがあるのかなと思います。先ほど防災訓練のお話が出ましたけれども、地域で多少違うと思いますが、私どもの前野地区では、学校の校庭で行う町会の防災訓練に、私は少年野球の面倒を見ているものですから、その野球チームの子どもを集めて参加させていまして、結構うまくやっております。

この専門部会で、あたたかい人づくりということで、地域の方々との接点をどうやって増やしていくかということが課題になると思うのですが、一昨年前ぐらいから、子どもたちの安全を確保するということが、地域の方々をお願いをして、子ども見守り隊やスクールガードというようなものができたと思います。放課後に、町会の方々などにパトロールしていただいていると、そういう方々とは子どもたちも顔見知りになっていて、安心できるということがあるのではないかと思います。

また、平成20年度からは放課後子ども教室という事業が始まるということで、これはまだPTAとしましても、よくわからない部分があるのですが、校庭開放事業の延長みたいなことで、地域の方々との接点が出てくると思います。こういう機会にまた色々な方々とお話し合いをさせていただいて、お互いに子どもたちの安心・安全と将来のために協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

**○田中委員** 老人クラブ連合会は、昭和33年に発足しまして、当時は、おとしよりを敬う、支えられる高齢者という時代でした。現在では、約5人に1人は高齢者で、50年後には2.5人に1人は高齢者だと言われておりますが、行政の対策は遅れております。今日お集まりの方々の所属されている団体等を見ますと、年齢で組織されているのは老人クラブだけだと思いますが、組織率は12%で、板橋はよい方だと思います。そのうち、約80%は元気な高齢者ですので、特に昼間は高齢者が地域の主役になる時代だと思います。

現在は、高齢者単身世帯に対する友愛活動や、小中学生との交流、介護予防・健康体操などの活動を行っておりますが、やはり人手の確保が課題です。老人クラブのPR不足や行政の縦割りの弊害などの問題もありますが、今後は、団塊の世代の方々をいかに取り込んでいくかということが大きな課題です。高齢化が進み、定年が延びていく中、団塊の世代を地域社会に呼び込むための意識啓発と言いますか、きっかけづくりとしまして、卒業式のようなものを地域で行ってはいかがかと考えたりしております。

**○中村会長** 団塊の世代というのは、まさに会社人間、職域人間ですので、地域社会にどのように入っていったらよいかわからない人が圧倒的に多いと思っております。ですから、何かきっかけがないとだめだと思うのです。その辺のヒントが、町会連合会の中田委員から何か出てくるかもしれませんので、よろしくお願ひします。

**○中田委員** 町会連合会の中田です。町会連合会では、月に1回、18支部の支部長さんにお集まりいただきまして、会議を開いております。やはり各団体等と一緒に何かをやるということは、本当に難しいことだと思いますが、やらなければならないと思います。私の町会の場合は、みんなで協力しようということで、何事も町会でやる場合は、三つの商店街と老人会に声をかけています。防災訓練も同様です。おかげさまで、何年前でしたか、災害時に倒壊建物に対して使用するジャッキやボール、のこぎりといったものを、商店街に買っていただきまして、それを置く場所は各商店に張ってあります。万が一の場合はそれを使ってくださいということになっています。

また、私の町会には26の「部」がありまして、一つの部に二つの班がありますので、部長会には全部で40～50人が集まります。私は、40年ほど消防団員をやっていたのですが、阪神・淡路大震災の後、実際に被災者の講演を聞いたことがあります。

その中で、人間的な付き合いがすごく大事なのではないかということをおっしゃっていたのが印象に残っております。町会の中が一つにまとまれば、商店街や他の団体にもつながっていくでしょうし、私の町会ではそのように考えているのですけれども、先ほど櫻井委員もおっしゃったとおり、人を集めるということが一番の課題です。今度の3月16日に、私の町会で防災訓練を行います、そのときは今課題の住宅用火災報知器を消防署に来ていただいて、よく説明していただき、みんなで共同購入しようかと、そのようなことも考えております。

**○新妻委員** 板橋の産業連合会には会長・副会長が合わせて6人おりまして、板橋区を三つの地域に分けて活動しております。主に製造業が中心の団体で、区とのつながりが強く、区の事業の肩がわりをしている場合が多いです。例えば、各工場には公害防止管理者の資格を持っている人を必ず置かなければなりません、その認定は、産業連合会があたかもやっているように見えますけれども、東京都なり区が主体です。

産業連合会が地域で行っている活動としましては、東京・荒川市民マラソンや区民まつり、花火大会への協賛のほか、産業見本市という事業があります。もう12年近くやっております、これは産業連合会産業部会の一番大事な行事です。

直接区民に対して実施しているものとしては、パソコン教室を開いております、安い会費でやらせていただいております。数年前からは中国語の講座などもやっております。

**○中村会長** 産業連合会の活動は、「元気なまちづくり」の分野ということですが、特に板橋区は23区の中でも工場の集積度が非常に高い区でもありますし、例えば、昼間に大震災が起こったときに、ものすごく大きなマンパワーになりうると思いますので、今後は「安心・安全」の分野の方にも協力していただかなければならないのではないかと考えます。非常に感銘を受けたのは、尼崎の事故が起きたときに、真っ先に駆けつけてくれたのが近くの工場の従業員たちでした。あれは、社長さんの一声で工場の操業を停止して全員救助に当たったようだけれども、そういう突発的な災害時には、広大な工場用地というのは、場合によっては避難場所にもなり得るでしょうし、抱えている従業員に、もちろん従業員の安全等もありますので、簡単ではないかもしれませんが、もしかしたら今後、区と協定ののようなものを結んで、災害の場合にはこういう協力をお願いしますという形になるのではないかと思います。そういう意味では、産業連合会と町会、あるいは学校などとの色々な形での協働が必要になってくるのではないかと考えておりました、そういう視点も今後お考えいただければ、新しい協働のあり方が出てくるのではないかと考えています。

**○堀口委員** いたばし総合ボランティアセンターの運営委員ということで参加させていただいております堀口でございます。昨今ボランティアというのが流行っているように言われておりますが、私の母体の組織は、高島平にあります高島平小地域ネットワークというまちづくりのボランティアグループです。私は高島第二中学校のPTA会長を経験いたしまして、その当時の校長先生から、学校のいわゆる支援団体である卒業生のOB会やPTAの活動ではどうしても抜けてしまっている部分がある、その部分を埋める中間的な役割を果たす、あるいは網羅的に活動する、そういう支援団体が欲しいというご相談がありまして、それで、そういう団体をつくって学校支援を



していく、そういうまちづくり活動に入りました。ですから、学校支援を大きなテーマとして、我々は全ての領域に関わっているというように思っております。皆様方は長い歴史と、行政との連携の中で確実に実績を上げてこられたわけですが、今私たちがやっているのは、それらの団体等の活動のすき間を埋めるニッチなまちづくりというようにご理解いただければと思います。皆様がどうも手を出しにくいとか、手を出さないというものを探して活動しております。

その一つが、これは10年前に立ち上げた組織ですが、「だれもが豊かに暮らせるまちづくり」をその当時からテーマとして持っております。その主要な活動は、ひとり暮らしの高齢者の孤独死対策です。当時、高島平では非常に孤独死が発生した時期でして、今も毎年数件ございますが、大変悲惨な状態です。ここ数年で高島平の団地は65歳以上の高齢者が50%を超えようとしています。非常に大変なことが起きるのではないかと危惧しております。孤独死するおとしよりも我々からアプローチしたのですが、最初はやはり怪しまれまして、活動は失敗しました。私も自治会の役員を20年ぐらいやっておりますが、元気なおとしよりは老人会でも何でも出てきますので、顔が見えます。ところが、我々が対象としている方々は、まちの中に出てこない、顔が見えないのです。そういう方々がまちに出てくるような仕掛けをしています。その一つの企画が「しゃべるクラブ」とか「リフォームクラブ」です。ここには今おとしよりも40人ぐらいいます。この方たち一人ひとりと話をし、災害があったときに訪ねていきますよ、だから、電話番号と住所を書いておいてくださいとお願いします。しかし、これも私の組織の中で止まってしまいます。我々が課題として持っているのは、個人情報限界をどう乗り越えていくか、これを何とかネットワーク化できないものか、ここをご指導いただければ、あるいはご協議いただければと思っています。

それから、子どもたちと学校との関係においては、大江戸舞祭を高島平で毎年開いております。今度6回目になりますが、東京中から子どもたちが1,500人ほど集まりまして、今年は多分倍になるのではないかと思います。そこに商店街連合会の板橋いっぴんの会との連携ができておりまして、ともに活性化していきたいと考えております。

それから、ものづくりとの連携ということで、中学生の職場体験、いわゆるジョブ・シャドウ・デイというものを、高島二中、あるいは板橋一中で実施しております。これは、人と人、それから空間と空間をつなげる、そういう活動だと思っております。学校が直接まちの中に出て行こうと思ってもなかなか難しいので、その緩衝剤みたいな役割を今果たしているような気がしています。

**○山口委員**　まずは、今日このような機会が持てて本当によかったと思います。皆さんは、どれぐらい民生委員のことをご存知でしょうか。そこがまず問題だと思います。ほとんどご存じないのではないのでしょうか。民生委員は、ただおとしよりのお宅を訪問しているといった感じで思われているのではないのでしょうか。間もなく板橋区では、70歳以上のおとしより全員のお宅を民生委員が訪問して、4月1日から使える敬老入浴証を配付します。今の堀口委員のお話ではありませんが、「お元気ですか」と持って行ってもなかなかうまくいきません。それでもとにかく、それをきっかけにして70歳以上のおとしより全員のお宅を訪問するというのが板橋区の特徴です。

実は今、民生・児童委員には欠員が出ている状況です。その理由の一つとして、民生委員を町会長が推薦するという制度がネックになっているのではないかと考えております。町会長次第で民生委員がなかなか決まらなかったり、決まってもすぐにやめてしまうことがあるのです。

また、高齢化が進んできますので、高島平やサンシティの民生委員は本当に大変だと思います。まず、増員していただいて、もう少しきめ細かに皆さんの様子がうかがえるようでない、孤独死もなくなるのではないかとと思います。都営住宅を二つ、三つ抱えている民生・児童委員は本当に大変なのです。

**○中村会長** ありがとうございます。私も民生・児童委員の経験がありますので、ご苦労は理解できるつもりです。

今、短い時間の中で、皆さんから現状と課題を色々出していただきました。恐らく話し足りなかったことが沢山あると思いますが、次回以降の専門部会で、またご発言いただこうと思っております。折角、このような場所で、色々な団体から様々なご意見や課題などが出されましたので、できればこれを皆さんが各団体に持ち帰って、少し情報交換していただきまして、次のこの会議にまたご意見あるいは提案をお出しただけだと考えております。ぜひよろしく願いいたします。

時間もありませんので、事務局から次回の日程等連絡事項がありましたらお願いいたします。

**○政策企画課長** 貴重なご意見を色々いただきましてありがとうございます。また、次回につなげてまいりたいと思います。

今回は3月下旬に開催したいと思っておりますが、皆様お忙しいと思いますので、日中の開催が非常に厳しい状況で、もし皆様方がよろしければ、夕方の5時ぐらいから7時ぐらいにかけて2時間程度で開かせていただこうかと、そのようなこともお含みおきいただければ、少し日程調整に余裕が出てくるかと思っております。

**○中村会長** それでは、今日皆さんから出た課題等を、事務局で整理していただいて、できればそれを、少し早めに皆さんに渡していただけるとよいのですが。

**○政策企画課長** そのようにしたいと思います。本日の会議録につきましても、事前に皆様のご了解をいただいた上で、区のホームページや区立各図書館等で閲覧できるようにしたいと思います。

**○中村会長** それをもとに、次回にいろんなご意見をお持ちいただければと思いますので、どうぞひとつよろしく願います。

## (5) 閉会

**○中村会長** それでは、本日の専門部会は閉会したいと思います。ありがとうございました。